

# 新年のご挨拶



三菱UFJ銀行健康保険組合  
理事長 関 浩之

新年あけましておめでとうございませう。被保険者ならびにご家族の皆さまにおかれましては、新型コロナウイルス感染症によって先行きが見通せないなか、心身ともに大変なご苦労をされておられることと存じます。こうした厳しい環境にもかかわらず、当健康保険組合の事業運営に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、今なお収束する気配はなく、人々の健康だけでなく、経済や社会など日常生活に甚大な影響を及ぼしています。有効なワクチンや治療薬の開発・普及により、人々がこれまでとは変わらない日常生活を取り戻すまでには時間を要し、今しばらく感染防止を意識した生活を継続し、健康保持に努める一年となりそうです。

このような状況下、健康保険の分野では、今春からマイナンバーカードを活用した「オンライン資格確認等システム」の運用開始が予定されていますが、コロナ禍による新しい生活様式の普及と、それを支える基盤としてのDX（デジタルトランスフォーメーション）推進の動きと相まって、健保業務におけるデジタル化の動きも一層加速していくものとみられます。

また、コロナ禍による受診控えなどにより、保険給付費が前年の水準を下回るなどの動きも見られますが、これは一時的なものと考えられ、団塊の世代が75歳に入り始め、医療費の増加や、義務的経費

である高齢者医療への拠出金負担の急増が見込まれる所謂「2022年危機」自体に変化はなく、健保組合財政の健全化が急務であることには変わりはありません。

私どもは、保険給付費の適正化努力の継続に加え、平成30年の仙石保養所売却など、武蔵野運動場売却の検討を進めるなど、収支改善へ向け一段と踏み込んだ施策を展開するとともに、「ウィズコロナ」「アフターコロナ」を念頭に、様々な課題に取り組み、保険者機能の発揮に努め、皆さまの健康増進を支え、健康寿命延伸のお役に立てる活動を推進してまいります。どうぞ、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

被保険者ならびにご家族の皆さまにおかれましては、新年を機に、今一度、ご自身の健康管理に心がけていただき、日々の健康づくりにお取り組みいただけますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、新春にあたり、今年一年皆さまのますますのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。